

# CNA Report Japan

Newsletter focused on  
Collaborative Conferencing

Conferencing News & Analysis— Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 7. No. 11 2005 年 6 月 15 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集:橋本啓介 [k@cna.jp](mailto:k@cna.jp) Copyright 2005 Kay Office All rights reserved.

## ニュース項目

### ■ ソニー、普及価格のビデオ会議システム「PCS-50」を発表



#### PCS-G50

ソニー(東京都品川区)は、IPELA シリーズの普及価格のビデオ会議システム「PCS-G50」を5月31日に発表、7月1日より発売する。

PCS-G50 は、同社の現行のハイエンドタイプのビデオ会議システム「PCS-G70S」の一部機能などを抑えた普及価格帯の製品。価格は、「PCS-G70S」の半分近くに設定した。

IPELA シリーズのコンセプトである高品質なリアルな映像と音声を普及価格帯機においても実現していくのが今回の製品開発の背景にある。(ソニー)

PCS-G70Sと比較して、PCS-50には、(1)MSレコーディング、(2)ストリーミング、(3)デュアルビデオ、(4)5拠点独立モニターアウト、(5)顔認識と音声認識で発話者の方へカメラが自動追尾してフォーカスするトラッキングカメラ、(6)3CCD カメラ、などは対応していないが、それ以外の映像、音声等その他のスペックについては、PCS-G50 も PCS-G70 も同じ性能を提供している。(ソニー)

画像符号化方式は、H.261 や H.263 以外にも最新の方式である H.264 をサポートし、IP 接続時で 4Mbps (H.263 で 4CIF フォーマットでの通信時)までの接続に対応。ISDN については、最大 768kbps 接続まで対応。

そして、音声は、標準的な音声符号化方式以外にも

MPEG-4 AAC もサポートすることにより、14kHzの高音質を、多地点会議環境でも実現。

多地点会議接続時では、IP ネットワーク(H.323)と ISDN 回線(H.320)の混在に対応。2つの回線の通信速度が異なる場合において、それぞれの回線スピードをそのまま維持し、その端末の可能な最高のパフォーマンスでビデオ会議が行える。

また、メモリースタックにビデオ会議の内容を保存することができる「メモリースタックレコーディング機能」を搭載。メインモニターに表示されている画像を記録し、QuickTime をインストールしたパソコンで再生する。



#### 本体スタンドに載せた状態の PCS-G50

その他では、別売のエコーキャンセリングマイク「PCSA-A7P4」があり、それを最大 80 個(40 個x2 系統)カスケード接続することができ、大人数での会議にも対応。

同時に発売するソフトウェアとしては、PCS-G50 用 MCU ソフト(IP 用)「PCSA-M3G50」、ISDN 用(PCSA-M0G50)がそれぞれ40万円(税抜き)。

### ■米ポリコム社と米ルーセントテクノロジーズ社、VoIP ソリューションで提携

米ポリコム社と米ルーセントテクノロジーズ社は、共同で IP ベースの音声とビデオによる会議ソリューションを提供することで提携。ルーセントテクノロジーズ社は、ポリコム社の

SIP 対応の「SoundPoint IP」と「SoundStation IP」を企業やサービスプロバイダー向けの VoIP 製品として販売する。

また、ルーセントテクノロジーズ社のサービスプロバイダー向けの「IP マルチメディア・サブシステム (IMS) ソリューション」に対応したビデオ会議&コラボレーションソリューションを共同で開発提供する。このソリューションの共同提供の一環として、システムインテグレーション、相互接続検証、ジョイントでのマーケティング活動などを行う。

■米ソニー、米 INFOCOMM にて「PCS-TL50」の普及機「PCS-TL30」を発表



6 月上旬東京で開催された Professional&Business Solution 2005 で展示された PCS-TL30 コンセプトモデル(前が PCS-TL30、後ろが PCS-TL50)ただし、この時点では、TL30 との名称は発表されていない。TL30 の名称は INFOCOMM で初めて発表された。

北米で6月上旬に開催された INFOCOMM で米ソニーは、オールインワンタイプの「PCS-TL50」の廉価版「PCS-TL30」を発表。今秋発売の予定。日本での発表は未定だが、コンセプトタイプのモデルは、Professional&Business Solution 2005(東京、6月上旬)でも展示されていた。

北米ソニーの発表によると、PCS-TL30 は、IP のみに対応したタイプ。TL50 よりは、若干小振りな大きさで、デスク上により置きやすいサイズに設計されている。さまざまな AV インターフェイスをサポートし、PC モニターとしても活用できる。刷新された GUI とマウスでの操作が追加されるため、操作性が向上。

ワンクリックダイヤリング、高音質指向性マイク、17 インチ WXGA LGD モニターとスピーカを内蔵。画像符号化には、

H.264 をサポートしており、2Mbps までの帯域に対応。さらに、音声は、MPEG-4 AAC (14Khz 音声) で高音質が実現。

また、UPnP(ユニバーサルプラグアンドプレイ)を標準でサポート。オプションとしては、会議中に PC データ共有が行えるデータソリューションモジュール(PCSA-DSM1)、そして SIP もオプションとして対応。

■中国 Huawei 社、テレビ会議システム新2機種発表、IP テレビ会議8Mbps まで対応



ViewPoint 8039

中国の Huawei 社(ファーウェイ)は、テレビ会議システムの新らたに2機種「ViewPoint8066」と「ViewPoint 8039」を発表。

「ViewPoint 8039」は、IP テレビ会議で8Mbps までの回線帯域に対応。ISDN は、2Mbps まで。H.264 でのテレビ会議は、2Mbps までサポート。H.239 (DuoVideo、1画面上にテレビ会議画面(相手の顔など)と PC 画面を表示)サポート、また Huawei 社の TripleStream 技術は、DuoVideo の拡張技術で、1画面上に、2つのテレビ会議画面と、1つの PC 画面を表示できる。

その他では、12テレビ会議拠点(～768kbps) + 12 音声会議拠点の混在多地点会議(画面分割4画面、6画面、9画面)、AES/DES 暗号化、NAT/ファイヤーウォール超えなどに対応している。NAT/ファイヤーウォール超え技術は、Huawei 社独自の技術 SNP を実装する。

6個のビデオ入力(内蔵のカメラを含む)と、5個のビデオ出力、4つの音声入力、3つの音声出力の豊富な AV インターフェイスを持つ。SXGA の入出力インターフェイスも持つため高解像度な PC データの表示などができる。

「ViewPoint 8066」は、セットトップテレビ会議システムで、IP(～2Mbps)、ISDN は、512kbps か 2Mbps での通信が可能。H.264 での通信は 2Mbps まで、音声については、ワイドバンド音声(20Khz)にサポートしている。H.239 (DuoVideo、1画面上にテレビ会議画面(相手の顔など)と PC 画面を表示)

サポート、また Huawei 社の TripleStream 技術は、DuoVideo の拡張技術で、1画面上に、2つのテレビ会議画面と、1つの PC 画面を表示できる。

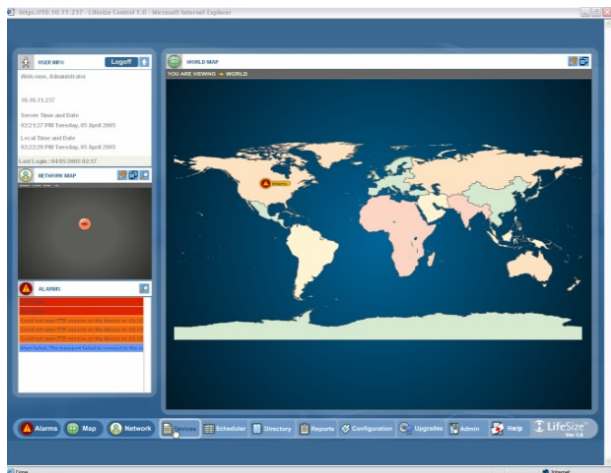


**ViewPoint 8066**

6テレビ会議拠点(～768kbps) + 6音声会議拠点の混在多地点会議(画面分割 4画面分割、6画面分割)、AES / DES 暗号化、NAT/ファイアーウォール超え(SNP)などに対応している。

**■米 LifeSize Communications 社と Codian 社が提携**

米のテレビ会議メーカーLifeSize 社と、MCU 専門メーカーCodian 社が提携。今回 Codian 社が、LifeSize 社のテレビ会議システムが実装する 1280x720 の高解像度技術を、Codian MCU で実装サポートする。これにより、1280x720 の高解像度による 20 拠点同時テレビ会議が行えることになる。



**LifeSize Control テレビ会議運用管理システム**

また、LifeSize の提供するテレビ会議運用管理システム「LifeSize Control」が Codian MCU をサポートすることになり、LifeSize Control のウェブインターフェイスから、Codian の MCU について、予約管理、ソフトウェアアップグレード、トラブルチケット、詳細レポート管理機能などを提供

することが可能になった。さらに、LifeSize 社のテレビ会議端末「LifeSize Room」と「LifeSize Exec」が Codian の IPVCR をサポートすることにより、会議の録画とストリーミング配信が行える。(LifeSize CNAレポート・ジャパン Vol.7 No.9 2005年5月15日号)、(Codian Vol.6 No.19 2004年11月31日号)

**ショートニュース項目**

◆イタリアのテレビ会議メーカーアエストラは、ISO14001(環境マネジメントシステム規格)を取得したと発表。

◆米 WebEx 社の「WebEx Meeting Center」が、米 SIIA(The Software & Information Industry Association、ソフトウェア及び情報産業協会、1986 年設立)により、“ベスト・コミュニケーション&コラボレーションソリューション”として Codia Award を受賞した。Codia Award は、カテゴリー別に、もっとも優れた製品とサービス内容及び会社の功績として授与される PC ソフトウェア及び情報産業界における栄誉ある賞の一つ。

◆「nice to meet you」の Web テレビ会議システムを ASP サービスとして提供するブイキューブブロードコミュニケーション(東京都目黒区)は、ネットスピード(東京都足立区)と連携して、nice to meet you の ASP サービスの利用時に、日本語と英語、中国語、韓国語、ドイツ語などの通訳を利用できる新サービス「nice to meet you 通訳サービス」を6月14日より提供開始。

◆日立ハイブリッドネットワーク(神奈川県横浜市)は、同社が販売する IP ビジュアルコミュニケーションシステム「NetCS series」に NTT 東日本(東京都新宿区)と NTT 西日本(大阪府大阪市)が販売する IP テレビ電話端末「フレッツフォン VP1000」に接続するオプションを7月1日より販売開始。NetCS series は、通信プロトコルとして SIP を採用した拡張性の高いシステム。これまでに「IP-PBX 連携」、「FOMA 接続」オプションを6月1日から販売してきた。

◆米の MCU 専門メーカーCodian 社は、サービスプロバイダー向けまた大規模企業向け高キャパシティタイプの、音声とビデオに対応する「Media Services Engine 8000(MSE8000)」を発表。H.323とSIPに対応。1ポートあたり4Mbpsまで対応した360ポートを実装(トータルで1Gbpsの帯域をサポート)。フォルトトレラントで拡張性の高い、管理が簡単で、またホットスワップに対応。将来は、1装置で1000ポートをサポートする計画。CIFと4CIF解像度から将来高解像度(HD)へのアップグ

リードも可能。企業向けの MCU 開発からサービスプロバイダー向けの MCU 開発への強化と見られる。

## 展示会レポート

### IP & Wireless Forum 2005

開催場所: 東京ビッグサイト

主催: 株式会社リックテレコム

共催: E.J.クラウド&アソシエート社

会期: 2005 年 4 月 13-14 日

<http://www.ric.co.jp/expo/ip2005/index.html>



ゼッタテクノロジー(会議支援ソフト「ネットプレゼンターPro、ハイブリッド型テレビ会議システム SmoothCom など展示」



大塚商会 / ポリコムブース(マイクロソフト Live Communications Server 2005 とポリコムのコラボレーションシステムとの連携ソリューションを展示・デモ



ソニーのビデオ会議システムと NEC の SIP サーバー連携



大塚商会 / ポリコムブース

#### パネルディスカッション

4月14日午前10時55分～正午

ビジュアルコミュニケーション導入決断の理由と活用効果～

導入企業に見る「コスト削減」と「スピード経営」～

4月14日午前11時より1時間ほど、会場ではテレビ会議システムのエンドユーザーパネルディスカッション行われ、企業にテレビ会議システムを導入する効果、導入してからの利用状況、利用方法、コミュニケーションに映像を使う意義などについて幅広い議論が行われ終始聴衆の関心を引きつけていた。

モデレータに日本大学商学部 教授 工学博士ビジュアルコミュニケーション推進協議会・会長児玉 充氏、そしてパネリストに、『テレビ会議システム 導入・活用ガイド』(日本実業出版社)の著者であるビジュアルコミュニケーション推進協議会

事務局長 株式会社エムストーン 代表取締役 藤原祥隆氏、株式会社大塚商会 総務部 兼 環境管理室 課長 妹尾 徹氏、そして一部上場機械メーカーの担当者が参加した。



今回エンドユーザがパネリストとして参加したが、テレビ会議ユーザーとしては重量級のユーザー。日々企業経営にとっては必須のツールとなっており、社内でテレビ会議を使うことが文化となっているという。

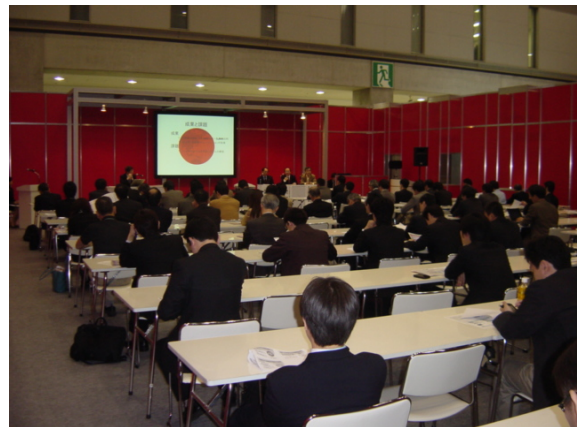
まず、モデレータの児玉氏は、最初の敷居は高いかもしれないが、価格が高いとか操作方法が大変という点は昨今のシステムでは非常に導入しやすくなったと指摘。加えて、最近のブロードバンドの普及が追い風になっているその背景も述べた。テレビ会議の特徴として、テレビ会議は使ってみないとその価値はわからない。使えば使うほど味がでくると、テレビ会議システムは有効性があると述べる。

今回パネリストとして参加した機械メーカーの担当者は、「当社ではトップダウンでテレビ会議を導入、国内外拠点でテレビ会議を利用している。社内では原則テレビ会議で行うという方針がある。出張稟議をあげる際に、テレビ会議で行えない理由を上司に対して説明する必要がある。そのため当社では、年間の出張費7000万円が3800万円のコストダウンが行えた。」

また、大塚商会の妹尾氏は、同社でのテレビ会議利用は文化になったと指摘。「19年前からテレビ会議を導入して利用している。現在では、全拠点30カ所に66台のテレビ会議システムを導入している。経費削減の一環として社内会議のための出張は一切禁止ということが追い風となり、社内でテレビ会議を使うのが当たり前という文化が根付いている。」

ちなみに、テレビ会議のIP化の部分では、大塚商会では、以前に導入していたテレビ会議システムの更改とともに、2年前に新たに全国30拠点66台のテレビ会議システムを導入した。その際に、ISDNで行うべきか、それとのIPで行うべきかの議論があった。当初はIPに対する不安があったため、バックアップとしてISDNを入れたという。しかし、途中からその必要性が薄れ、ISDN回線を全て撤去。現在はテレビ会議システム用のネットワークとVPN、そして暗号化を組み合わせ万全のセキュリティ環境でIPテレビ会議を行っている。

出張を減らすことによる経費削減については、「経費削減ばかりに目がいくが、見えないコストも重要。キーパーソンが現場にいないと困るというコスト。そうするとその現場では無駄が発生する。そのための機会損失は大きい。テレビ会議がありキーパーソンが1カ所にいれば、決断がすぐに行えるため機会損失をなくし、経営のスピードアップ並びに効率化が行える。ここ当たりが実際の出張費以外での見えないコストダウンではないか。」(エムストーン 藤原氏)



また、一部上場機械メーカーの担当者の会社では、新入社員入社式に社長がニューヨークに出張していたため、社長がテレビ会議を通して遠隔で新入社員にライブで挨拶をした。社長は出来れば入社式に出席した方がよかったのかもしれないが、効率的な時間の使い方がテレビ会議によって行うことができ機会損失を防げたという。ここはテレビ会議の強みと同担当者は指摘する。さらに、大塚商会では、会議室以外にも、社員食堂などにもテレビ会議を設置しており、賀詞交換会、懇親会など社員間のコミュニケーションの活性化にもテレビ会議が役買っているという。

キーパーソン不在による機会損失以外にも、大塚商会ではテレビ会議を使った効率的な社内研修を行っている。「当社

では、月次の営業報告会などで400名ぐらいが集まるべき会議にテレビ会議を使っている。また、営業拠点が全国にあるため、社内研修となると営業時間外の限られた時間、午後6時とか7時とかになり、その時間帯に人を集めてとなると大変な負担。そこでテレビ会議を使って効率的に販売研修を行っている。」(大塚商会 妹尾氏)

なぜ、映像を使ったコミュニケーションがよいのかという点については、「試作品、あるいはサンプルなど書画カメラを使って打ち合わせを行っている。そういった場合は映像画面が必要になる。また、勿論、実際に会うことに越したことはないが、それが物理的に難しい場合は、相手の顔、表情が見えるということの意味の大きさについてはテレビ会議を導入して実感している。」(機械メーカーの担当者)

「電話だと、YESあるいはNOと言ってもニュアンスがわからない場合があるが、テレビ会議であれば、相手の目を見ると本当にYESなのかNOなのかわかる。また軽い冗談など電話では誤解される場合があるが、映像があれば本当に冗談を言っているのだということと和む。シビアな意志決定の場面では相手の顔を見て本当にYESなのかNOなのかという高度な判断ができるため、そういう意味では映像は大事だと思う。」(エムストーン 藤原氏)

映像コミュニケーションは、人対人だけの、人と物といった部分でも有効性があるのではないかと児玉氏は言う。一例として、あるクリーニングチェーン店には、店舗毎にテレビ会議が設置されているという。児玉氏が訪れた店舗の管内では30店舗があり、本店とテレビ会議で結び、顧客の衣服の汚れの部分の確認、そしてその具合、または汚れが落ちるかどうかなどを本店の専門の担当者と確認するという例があるという。

社内でもテレビ会議を積極的に使っているエムストーンの藤原氏によると、「電話で5分10分の時間ですむところを、テレビ会議になると30分とか1時間とかになる経験がある。TPO に応じてテレビ会議だったり、たとえば音声会議やWeb 会議だったりという使い分けが必要。ケースに応じてテレビ会議を使うか使わないか、出張するかしないか、その辺の判断を社内でルール化すると効率的な運用とまた経営にもプラスに働くのではないか。」

その点について、児玉氏は、音声会議やWeb 会議が最適なビジネスシーンがあると言う。たとえば、マネージャーク

ラスの込み入った話などの意志決定が関係してくると映像があったほうが良いという場合もあるが、ドキュメント共有と音声の Web 会議があれば十分といったシーンもユーザー調査をしていると見えてくる。全てテレビ会議ではなく TPO によっての使い分けと社内でのルール化を行うことにより社内での会議システムの活用は生きる。

(展示会レポート終わり)

## BCS Tokyo 2005 情報



日時: 2005年7月14日(木)-15日(金)

午前10時~午後5時半

場所: 青山テピア 3階展示ホール 4階テピアホール

ホームページは6月15日オープンしました。

<http://www.bcs-tokyo.jp>

事前登録特典: ご来場時、先着 2000 名様に「会議システム(入門編)ハンドブック」を進呈いたします。

## 編集後記

BCS Tokyo 2005 は今年 2001 年 7 月の TeleSpan セミナーから数えて第 5 回目となりました。6 月 15 日から雑誌やインターネットのメール媒体などでの告知が始まります。ここまで準備が出来たのも皆様のご協力のお陰です。

後1ヶ月事務局一担当として一生懸命頑張りたいと思います。今年も当日は表には出ませんが、裏方で会場を走り回っていると思います。お時間のご都合がありましたら、ご来場いただければ幸いです。

6月、7月はBCS Tokyo 2005(7月14日-15日)の関係で、スローダウン、あるいは休刊の場合もあります。

CNA Report Japan

Conferencing News & Analysis

CNA レポート・ジャパン

編集長 橋本 啓介 [k@cna.jp](mailto:k@cna.jp)(CNA レポート・ジャパン  
Vol 7. No.11 2005年6月15日号終わり)次号 Vol 7. No.  
12は、2005年6月30日の発行を予定しております。